

できなかった。またリハビリテーションの開始時期やリハビリテーションの種類や量にも、病院間で違いが見られた。

これらを含め、他領域の解析アウトプットのフィードバックの結果、結果が実態を反映しているという意見、他施設の診療が非常に参考になるという意見が多く、今後、医療の質・安全の改善のためのツールとしてのポテンシャルが示された。

【結論】

診断群分類に関わるデータ・診療報酬データは、統一されたフォーマットを持ち、同じような臨床的状況にある患者の診療を病院間で比較するのに、非常に有用である。われわれの解析結果は過去の多くの研究と同様、同一疾患・治療に対する診療に大きなバラツキが存在することを示した。

しかし同時に、予防的抗生剤投与などの分野では、ガイドラインなどの整備により、診療の標準化がある程度進んでいることも示唆された。今後、このような診療パフォーマンスデータの解析や結果の提示は、医療資源消費のモニタリング・薬剤や検査利用における問題点の同定・介入的研究におけるアウトカム評価、政策評価など多岐にわたって応用でき、また、質・安全を保証し改善するために有効な活用ができると考える。